

千葉県の地方創生「総合戦略」骨子（案） 〈2015～2019年度〉

○ 基本視点

来るべき人口減少社会の中においても、県民が満足して暮らせることができるように、急激な人口減少の歯止めと地域経済の活性化を図るとともに、持続可能な地域社会の確立のため、以下の4つの視点に基づき、総合戦略Ⅰ「東京オリンピック・パラリンピックを契機とした『世界中から人々がやってくるCHIBA』づくり」と、総合戦略Ⅱ「地方創生の実現に向けた千葉づくり」を着実に推進することにより、千葉県ならではの地方創生に取り組む。

なお、本県では、2013年（平成25年）に「新 輝け！ちば元気プラン」を策定し、2013年度（平成25年度）から2016年度（平成28年度）までの4年間で、くらし満足度日本一の実現に向けた取組を重点的に進めているところであり、本戦略はこれを加速し、次期総合計画へ展開していくものである。

（1）中長期的かつ総合的な取組

人口減少の影響は、中長期にわたり、幅広い分野に生じる。

そのため、一過性の対症療法的なものではない、中長期的かつ総合的な取組を進める。

（2）千葉を愛し、時代を担うひとを育む取組

産業、地域コミュニティをはじめ地域の活力を支えるのは、千葉を愛する「ひと」である。

そのため、千葉に愛着を持ち、相互に支え合う「ひとづくり」の取組を進める。

（3）本県の特性や強みを生かした取組

地方創生は、それぞれの地域が独自性を生かし、潜在力を引き出すことにより、地域の活力を高めていこうとするものである。

千葉県は、地勢的に東京に隣接するとともに、社会基盤も充実し、また、バランスのとれた産業構造を有している強みがある。

そのため、本県の特色や地域資源といった「千葉の宝を徹底的に生かした」取組を進める。

（4）地域間の連携した取組

多様化する県民ニーズや社会・経済情勢の変化を的確に把握し、柔軟かつ効率的な行政運営を行うためには、県内市町村、近隣都県との連携促進を図ることが重要である。

そのため、防災、医療・福祉をはじめ、県内の地域間連携や近隣都県との連携促進を図る。

総合戦略 I

～東京オリンピック・パラリンピックを契機とした
「世界中から人々がやってくるCHIBA」づくり～

総合戦略 I

～東京オリンピック・パラリンピックを契機とした 「世界中から人々がやってくるCHIBA」づくり～

約半世紀ぶりに開催される東京オリンピック・パラリンピックは、千葉の魅力を高める未来への投資を行い、千葉県の発展につながる「宝」を磨きあげるとともに、これを広く国内外に発信することにより、「世界中から人々がやってくるCHIBA」をつくりあげる千載一遇のチャンスである。

この実現に向けた取組は、新しい人の流れを創出し地域経済の活性化を図るとともに、多様な主体が連携し安全で安心して快適に過ごせる環境を整備し、子どもたちが誇れる千葉を「オール千葉」体制で作上げるものであり、まさに、地方創生の核となるものである。

このため、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を本「総合戦略」に位置付け、2020年までの5年間における取組を推進することにより、地方創生の実現を目指す。

◆キャンプ・国際大会・MICEの誘致

事前キャンプや国際大会の誘致は、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待される。このため、キャンプの受入体制の整備を進めるとともに、世界選手権などプレ大会を含めたキャンプ及び国際大会の誘致を推進する。

また、オリンピック・パラリンピックに関連して開催される国際会議をはじめ、様々なイベントが本県で開催されるようMICE誘致を積極的に進め、地域経済の活性化・国際的ブランドイメージの構築を図る。

◆成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化

成田空港に降り立った選手や観客が、ストレスを感じることなく、空港と選手村・競技会場はもとより、県内をスムーズに移動できるよう、交通ネットワークの強化を図る。

◆バリアフリー化の促進

オリンピック・パラリンピック開催を契機に本県を訪れる人々誰もがスムーズに移動し、快適に滞在できるよう、競技施設や旅客施設等について利用者の視点に立った施設の整備を進め、ハード面でのバリアフリー化を促進するとともに、サポートできる人材の育成やバリアフリーに関する情報提供の充実などソフト面でのバリアフリー化を進める。

◆魅力ある観光地づくり

「選ばれる観光地」として更にステップアップを図るため、目に見えないおもてなしである「安全・安心の確保」、一人ひとりの満足感を高める「質の高いおもてなしの提供」、地域の創意工夫による「観光地としての新たな魅力の創出」に取り組む。

◆外国人受入体制の整備

多くの外国人が訪れ、満足する「国際観光地CHIBA」を実現するため言葉の壁などに不自由さを感じることなく安心して快適に過ごすことができるよう「受入環境の整備」を進めるとともに、「和の心」を持ちながら、多様な価値観等を尊重し、外国人からも高い評価を受けるワンランク上の観光地づくりに取り組む。

◆国際交流の促進

世界の国・地域から多くの人々が本県を訪れる機会を生かし、積極的に国際交流や青少年の国際理解を促進し、グローバル人材の育成を図るとともに、大会後にも本県を訪れる外国人をサポートできるボランティア人材の育成に取り組む。

◆戦略的な千葉の魅力発信

成田空港を有し、国内外の多くの都市と直結している本県の利点を生かし、様々な媒体の活用を図り、効果的かつ積極的に千葉の魅力を国内外に発信する。

総合戦略Ⅱ

～地方創生の実現に向けた千葉づくり～

総合戦略Ⅱ

～地方創生の実現に向けた千葉づくり～

千葉における地方創生（人口の社会増、少子化への挑戦、人口減少社会に対応した県づくり・安全安心なくらしの確保）を確実に実現するには、それぞれの地域において、その特性を生かした取組を進めることが必要であり、住民の生活に密着した市町村の果たす役割が重要である。

このため、地方創生の本旨を踏まえ、以下の4つの基本目標を設定し、各地域において「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」の好循環がしっかりと根付くよう、市町村と目標を共有し、市町村が取り組む、地域の課題を踏まえた意欲と創意工夫による地域づくりを広域的な立場から支えるための施策を展開する。

- (1) “働きたい” がかなう千葉づくり
- (2) “人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり
- (3) “結婚・出産・子育ての希望” がかなう千葉づくり
- (4) “安全・安心なくらし” がかなう千葉づくり

(1) “働きたい” がかなう千葉づくり

産業の振興や新たな雇用の場を創出することで、人々は住み続け、多くの人々が転入することにより地域経済は活性化するという更なる好循環を生み出すこととなる。

このため、本県の地理的優位性（東京への近接性、豊かな自然環境等）、優れた社会基盤（成田空港、アクアライン、圏央道、千葉港等）、バランスのとれた産業（全国上位に位置する農業、水産業、工業、商業）をそれぞれの地域で生かすことで、若者にとって魅力ある雇用の場を創出するとともに、将来的には、県内各地域において通勤1時間圏内に雇用の場が確保されるよう取り組む。

◆地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進

アクアライン料金引き下げ継続や外環道等の整備により、県内外各地への交通アクセスが更に向上するとともに、成田空港の30万回化に伴う機能拡充等、本県のポテンシャルは飛躍的に高まっている。

この機会を生かして、茂原にはる、袖ヶ浦椎の森の両工業団地の整備を進めるとともに、県内各地域（アクアライン・圏央道沿線地域、成田空港・圏央道沿線地域、千葉市地域、東葛地域）の特性に応じ、国内外からの企業立地をさらに促進する。

このため、知事トップセールスや市町村・民間と連携した誘致活動の強化、企業の幅広いニーズに対応した助成制度の活用等により積極的な企業誘致に取り組むとともに、県内企業がさらなる成長のために行う投資を支援する。

また、千葉港において大型船舶に対応した港湾整備を進めるとともに、貨物量の安定的な増加を目指したポートセールスを推進する。

◆力強い農林水産業の確立

本県の農林水産業を、若者にも魅力ある力強い産業として確立することにより「農林水産王国・千葉」を復活させる。このため、首都圏に位置する優位性を生かし、消費者ニーズに合った農林水産物を安定的・継続的に提供できるよう、農地集積、機械化、新技術の開発及び鳥獣被害対策の実施等により生産力の強化と生産性の向上を図る。

また、輸出をはじめとする新たな販路の開拓や高付加価値化を目指した6次産業化の取組等を支援するとともに、資源の有効活用を促進する。

さらに、地域の農林水産業をけん引する意欲ある人材や企業的経営体など、多様な担い手の確保・育成を図る。

◆未来を支える新産業等の振興

多様なポテンシャルを持つ本県の産業の持続的な発展を支えていくため、県内の高い技術力を持つ企業や大学・研究所、インキュベーション施設などを生かし、産学官連携の推進やベンチャー企業の支援等に取り組むほか、今後、市場規模の拡大が見込まれる健康・医療や新エネルギー等の成長分野に係る産業の育成・振興に取り組む。

◆京葉臨海コンビナートの競争力強化

本県の経済・雇用を支える重要な地域となっている京葉臨海コンビナートの競争力の強化に向け、事業高度化に向けた投資への支援など生産性の向上につながる基盤の強化を図るとともに、コンビナートを地域で支える観点から女性・若者・シニアの活躍を見据えた人材の育成等に取り組む。

◆中小企業の活性化支援

県内企業の99.8%を占める中小企業は、地域経済を支える重要な存在である。

このため、各地域における支援機関と連携しながら、中小企業による積極的な投資の促進や、地域資源を活用した新事業展開・新商品開発への支援、農商工連携の活用等により地域産業の振興を進めるとともに、中小企業のニーズに応じた多様な人材の育成・マッチングを図ることにより、産業の担い手を確保する。

◆地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進

地域が持つ様々な資源を「強み」に転換する創意工夫を行いながら、民間事業者等が主体的に行う事業活動や、地域特有の需要を掘り起こし、地域に根付いていく起業・創業が、「まち」のにぎわいづくりなどに発展し、地域経済全体の活性化へとつながるような取組を促進する。

特に、まちの顔とも言える商店街は、地域の住民にとって買い物など生活の拠点であるため、商店街に求められる機能の強化や、まちのにぎわいづくりなど、地域の意欲ある取組を支援する。

◆主要都市間の交通アクセス整備

全国や県内各地とのスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道や外環道、北千葉道路などの高規格幹線道路等の整備を促進する。

また、高規格幹線道路等の整備効果を県内各地に波及させるため、銚子連絡道路・長生グリーンラインなどの地域高規格道路や高速道路のインターチェンジへアクセスする国道・県道の整備を推進する。

(2) “人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり

日本人のみならず外国人にも楽しく、過ごしやすく、住みやすい環境づくりを進めるとともに、「魅力の宝庫 ちば」を国内外に積極的にPRし、移住・定住の促進、交流人口の増加を図る。

◆国際社会の中で発展するCHIBAづくり

多言語表記等の充実・無料公衆無線LANの整備やボランティア人材の育成等、ソフト・ハード両面において、外国人がバリアなく安心して過ごせる環境づくりを進めるとともに、あらゆる場面を活用して千葉の魅力を発信し、国際社会の中で発展するCHIBAを目指す。

◆居住地として選ばれる千葉づくり

千葉を愛し、住みたい人の増加を図るため、本県の持つ優れた住環境や文化など多様な魅力を県民に再確認してもらうとともに、県外の人々にもこれらの魅力を積極的にPRする。

併せてこれらの人から千葉県が居住地として選ばれるよう、都心へのアクセス強化や地域間における交通の利便性の向上を図るとともに、就業を希望する人と働く場を提供する企業との雇用のマッチングに取り組む。

◆国内外の誰もが訪れたい観光地づくり

観光による交流人口の増加を図るため、本県の持つ「宝」である地域資源をさらに磨き上げ、これらを活かした観光メニューの開発を市町村や関係団体などと協働して進めるとともに、観光地までのアクセスルートの整備等の推進や、訪れた人々が快適に過ごせる環境整備を促進し、国内外の誰もが何度でも訪れたい観光地づくりに取り組む。

◆大学等との連携による地域への若者の定着促進

高校・大学等の卒業後も、引き続き県内に留まってもらえるよう、県内教育機関において、地域とのつながりを深め、地域課題の解決に貢献する取組を促進するとともに、高校・大学等と地元企業の連携強化等により、地元企業の魅力発信の充実や学生等と企業の出会いの場の創出、地域を支える人材の育成などの取組を推進する。

◆千葉の様々な魅力の国内外への発信

「魅力の宝庫ちば」を知事のトップセールスやちばアクアラインマラソンをはじめとする各種イベント、また、テレビ・ラジオ等の各種媒体を通じて積極的・戦略的に発信し、千葉県知名度、信頼度、好感度を高めて、「行きたい地域」「暮らしたい・働きたい地域」「買いたい製品の生産地」として選択される魅力ある千葉県を目指す。

(3) “結婚・出産・子育ての希望”がかなう千葉づくり

若い世代の結婚・子育ての希望を実現させるとともに、子どもたちが心身ともに健やかに生まれ育つよう、妊娠・出産から子どもの自立までを総合的に支援することにより、少子化の流れに歯止めをかけ、次代の千葉を担う子どもたちの成長を支える。

◆若い世代の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減

若い世代が結婚し子どもを生み育てるという希望をかなえるためには、経済的な自立と安定が必要であることから、就職に結びつく職業訓練や相談から就職までの一貫した支援、企業に対する要請・啓発などにより、正規雇用としての就労・定着を促進する。

また、予定子ども数が理想子ども数を下回る大きな要因として考えられる、子育てや教育に要する経済的負担の軽減を図るための支援を行う。

◆妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

若い世代が妊娠・出産・子育てに対する希望をかなえるためには、各ライフステージに応じた切れ目のない支援が必要である。

そのため、妊娠・出産に関する医学的知識の普及や妊婦や乳幼児等の健康を守る取組など安心して子どもを生むことができる充実した支援体制を整備するとともに、子どもたちが笑顔で健やかに育つよう、企業・地域による支援体制の構築など、子育て家庭を社会全体で支える取組を推進する。

また家庭において、安心して子育てができるよう、親の学びの機会や子育てに関する情報提供などの支援に努める。

◆働きながら生み育てやすい環境づくり

男女がともに意欲と能力を生かして働きながらも、安心して生み育てやすい社会の構築のため、企業や働く人々の意識改革や、育児休暇の取得促進など仕事と子育ての両立を実現できる職場環境づくりの促進を図るとともに、女性が活躍しやすい環境づくりに取り組む。

◆千葉に愛着を持ち、地域や世界で活躍できる子どもの育成

学校、家庭、住民、企業・団体などと連携、協働し、質の高い、安全・安心な教育環境づくりを進めることにより、自らの生き方を考え、志を持ち、失敗を恐れずにチャレンジする精神にあふれ、地域や世界で活躍できる能力を備えた、千葉県未来を担う子どもを県内各地域で育成する。

(4) “安全・安心な暮らし” がかなう千葉づくり

人口減少・少子高齢社会においても人々が元気に安全で安心して暮らし続けることができるよう、地域内外の多様な主体が地域を支える仕組みを整えるとともに、既存ストックのマネジメント強化などにより人口減少・少子高齢社会に対応したまちづくりを進める。

◆生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり

高齢者等が安心して自立した生活を送り、健康で自分らしく生きられる地域社会を目指し、住民組織や市民活動団体等が連携して、地域で支え合う体制づくりを推進するとともに、地域において安心で質の高い医療・介護等のサービスが受けられる体制を構築する。

また、ライフステージに応じた食育の推進や県民のスポーツへの参加推進などにより、生涯にわたって健康づくりに取り組むことができる環境を整備する。

◆地域コミュニティの再生と担い手づくり

互いに支え合い、安心して暮らせる地域コミュニティを再生するため、若い世代・高齢者や企業、市民活動団体等の地域活動への参加促進や広く学習の場を提供することにより、地域を支える人材や団体等の育成を図るとともに、地域内外の多様な主体が連携・協働して取り組む体制づくりを進める。

◆快適で暮らしやすいまちづくり

人口減少が急速に進行する地域にあっても、安心して快適に暮らせる生活環境を維持するため、公共施設や空き家など既存ストックのマネジメントの強化を図るとともに、コンパクトなまちづくりや交通機関のネットワークの再構築などの取組を進める。

また、地域の特色を生かしエネルギーを安定的に確保するため、地域分散型エネルギーの取組を推進する。

◆安全に暮らせる地域づくり

多様な主体が一体となって、地域の防災力や防犯力の向上を図るとともに、災害に強いまちづくりを推進し、県民が安全に暮らせる地域社会をつくる。

◆地域連携の強化

人口減少社会においても、多様化し複雑化する県民ニーズに対し、持続可能な形で行政サービスを提供していくため、県と市町村間における連携強化や県による市町村への事務の補完に取り組むとともに、市町村間の連携の強化を図る。

また、日常生活においては、生活圏が県境を越えて隣接都県に及ぶことも多いことから、隣接都県との広域的な連携を推進する。